



開幕前日、イチローは上げた。いわく、「もう和やかな笑みを浮かべて探し物がない状態」。

いた。「今年の四月、3割は打ちたいですね」  
 昨年四月の打率は2割5分5厘。例年四月を準備期間」と位置づけるイチローは、五月に入ってから

打率を上げるスロースターターだ。しかし、過去最高の状態で開幕を迎え、これまでは「2割8分でいい」と考えていた春先の目標を、2分引きり口にする。

イチローがここまで理想的な形に近づいたのは、昨年夏の打撃フォーム変更がきっかけだ。右足を引くと、「バットが自然に寝た」。そのときのひらめきを、イチローはこう表現している。「ちょうどこう、ニタツとしてし

## 理想の打撃へ手応え

まいますよね。何かを得たときに、自分だけで笑ってしまふような……」  
 メジャー新記録となった昨季のシーズン262安打も、「フォーム改造が」結果的に探り続けたものにつながり、それによって出た記録」と、成果を認める。

極みに近づいたイチローの打撃。だからこそ4割の期待も高まるが、「ファンから、それを期待される選手でありたい」と言うだけで、多くは語らない。だが、「壁が出てきてほしい」と望み、「今からそこは意識できない」と断りつつも、「それがたとえ4割でも」と意識があることはおわせている。

昨年の時点では、「そこを目標とすることはできない」と話したが、意識の変化は、常に自分の限界を探ろうとしている彼の中で、ほんやりとしかとえられなかった4割という数字が、形となつて見え始めた表れなのかもしれない。

(スポーツライター

丹羽政善)